

# 広げよう！優良実践の輪！

～平成28年度 頑張る学校応援事業 優良実践校の取組～

取組 11

## 学力向上に向けた若手教職員の 人材育成の取組

岡山市立牧石小学校

### 1 はじめに

本校では、友達と交流しながら考えを深めたり、自分なりの言葉でまとめを書いたりする児童の育成に課題があり、教職員の授業力を高める必要があります。特に若手教職員の育成が喫緊の課題と考え、取組を進めました。

研究、指導案・資料作成等で先輩からの様々な助言や協力を受けて、授業力を高めることができました。

### (2) 牧石塾・ちやぶ台研修

牧石塾とは、校内の様々な職種の教職員が講師となる研修のことです。また、ちやぶ台研修

### (3) 若手の会

とは、職員室中央にあるテーブル（ちやぶ台）で、教材研究や授業の打ち合わせ、学級経営・生徒指導上の相談などを行う研修のことです。これらの取組により、若手教職員のニーズに合った研修を進めることができます。

「若手の会」は30代までの教職員で構成されており、若手の担当が中心になって研修を進めています。それぞれの個人テーマに沿って研修を進め、発表会で中間報告や成果報告をします。

### (4) 授業づくり

本校では冒頭の児童の課題に迫るため、「主体的な学びを生み出す授業づくり」自ら考え、表現し、実践する子どもをめざして「テーマに研究・研修を進めています。「目指す児童像」を共通理解し、「学習活動の充実」「深い学びにつながる指導方法の工夫」「家庭・地域

### 3 おわりに

若手教職員が育つていくためには、ともに伸びようとする、温かく前向きな職場の雰囲気づくりが不可欠だと考えます。教職員の育ちが児童の育ちにつながる学校づくりを今後も目指していきます。

(校長 三宅 千加子)

2 取組の概要  
(1) 初任者研修の活用  
「先輩授業の参観」を計画的に位置付け、校内研究授業とは別に、一人1～2回の授業をしました。初任者だけでなく、多くの教職員が参観し、放課後を利用して短時間の授業反省会をもちました。

初任者の公開授業では、教材



ちやぶ台研修で教材研究



思考ツールを使って考えを交流

学校全体の徹底した取組による落ち着いた  
学習環境づくりと学力向上の取組

美作市立大原小学校

1 はじめに

本校には、児童の学習意欲に課題があり、家庭学習の時間も短いという実態がありました。また、特別な支援や配慮を要する児童も多く、全国学力調査では全教科で全国平均を下回っていました。

この実態を踏まえ、全教職員で次のような取組を行いました。

2 本校の取組

(1) 基礎基本の徹底

朝学習では、曜日ごとに、計算・読書・読解力等に全校で取り組みました。また、週に一時間のチャレンジタイムには「到達度確認テスト」等を活用し、基礎学力や読解力・活用力の向上に取り組みました。

(2) ユニバーサルデザインの

授業



教え合い、学び合い

教室環境をユニバーサルデザイン化し、学習により集中できる環境を整えました。岡山型学習指導のスタンダードを徹底し、「めあて・まとめ・ふりかえり」を意識した授業づくりを進めました。また、「時間貯金」を取り入れ、チャイムスタートに徹底して取り組みました。その結果、どの学級もチャイムと

同時に学習がスタートし、子ども達も見通しを持って学習に取り組めるようになりました。

(3) 家庭学習の充実

美作市統一の連絡帳を活用して、めあてを持って家庭学習に取り組ませる指導を行いました。児童一人一人が自分自身の課題意識を持つ指導を重ねた結果、家庭学習時間も以前より増えてきています。また、3年生以上では自主学習の取組も進め、見本となるノートを掲示することで、「めあて・ふりかえり」を意識した自主学習が増えてきています。

「(4) 「あたり前」のことがあたり前にできる大原小学校

学びの基盤は何と言っても落ち着いた学習環境です。本校では、以前から3つの「あ」の取組を行っています。それは「あいさつ」「あんぜん」「あとかたづけ」です。昨年は、これに加えて、「寡黙（火木）そうじ」に取り組みました。本校は、以前から縦割りそうじを行っていますが、「火曜日」「木曜日」は、終始黙ってそうじをしようとい

う取組です。班長の声かけで、子ども達は黙々とそうじをするのです。最初は、「できるかな」という不安もありましたが、子ども達は見事にやっけてくれました。「あたり前のことをあたり前にする」は、この取組でも生きています。



めざせ! ぞうきんマイスター

3 おわりに

こうした取組の積み重ねにより、落ち着いた学習環境が整い、学力向上においても徐々に成果が上がっています。全教職員による「凡事徹底」がいかに大切かを実感しています。

(校長 福井博視)

落ち着いた学習環境と基礎基本の徹底による学力向上の取組

矢掛町立小田小学校

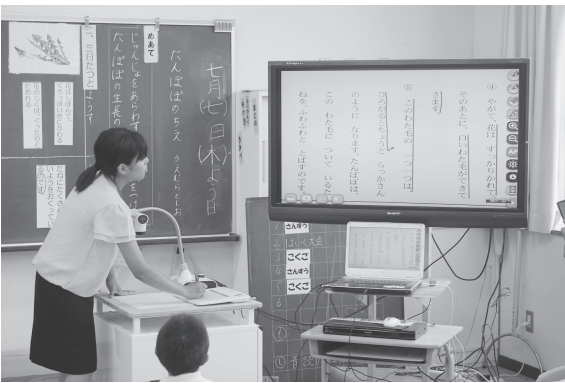
1 学校の現状と課題

本校は7学級（特別支援学級1学級）の小規模校です。保護者や地域は学校教育に対して協力的で、多くの方が学校に関わってくださっています。児童は素直でまじめですが、集中力に欠けたり理解に時間を要したりするなど、特別な支援を必要とする児童も多く、学力も二極化の傾向がありました。また、基本的生活習慣や家庭学習の面でも課題がありました。

2 取組の実践

(1) 特別支援教育の充実

アセスメントシート、ハイパーQ U等を活用し、特別支援教育の観点を生かした児童理解や人間関係づくり、環境整備や授業づくりに取り組みました。ま



ICT機器の活用

ず実態を把握し、落ち着いた学習環境の中で基礎基本の確実な習得や個々の児童の困難さに対応できるように、教職員で共通理解を図りました。

(2) 授業改善

岡山型学習指導のスタンダードを基に、めあて・まとめ・振

り返りを大切にしたい授業を徹底しています。また、ICT機器を効果的に活用したり（視覚化）、ペア学習やグループ学習を意図的に位置づけたり（共有化）、構造的な板書を心がけたり（焦点化）しながら、どの児童にも分かりやすい授業を実践していきます。

(3) 補充学習の充実

地域学習ボランティアや地元高校生「やかげ学」との連携で、朝学習やモジュール学習の時間に基礎基本の定着を図っています。

(4) 保護者との連携

矢掛町保幼小中学校生活・学習規律等一貫指導プランや、年3回の矢掛町家庭学習強化期間に合わせた「小田っ子ががんばり表」の取組等により、基本的生活習慣づくりや家庭学習の習慣化を図っています。また、自主学習ノートの取組も全学年で行っています。

3 おわりに

特別支援教育の観点で学習環境や授業を見直し、全教職員が共通理解を図って徹底して指導にあたることで、学校全体が落ち着き、児童の学習意欲や学力の向上が見られるようになりました。今後は、さらに学び合いやコミュニケーション能力の向上を目指して、組織的・計画的な取組を進めていきたいと思えます。

(校長 片岡 琢雄)



地域学習ボランティアによるモジュール学習



笠岡市人権・部落解放文化祭での合唱



## 1 はじめに

本校では、落ち着いた学習環境を整えるために、「人間関係づくり」に重点を置いた教育活動を行っています。

## 2 特色ある教育活動

### (1) 人権学習

放課後の人権学習会、校内人権学習、笠岡市人権・部落解放文化祭への取組が中心です。

自己理解や他者理解を深める中で、お互いの個性や意見の違いを尊重し、協力して目標達成や問題解決のできる生徒を育てることを目指しています。

### (2) 学び合いのある学習

年間を通して、全ての教科・学年で実施しています。コの字型の座席配置や、小グループでの活動を数多く行う中で、共に学び合う楽しさと喜びを感じ合うことができる授業づくりを目指しています。

### (3) プロジェクト学習

「だれもが幸せに暮らせる社



英語の授業での学び合い

会の実現」を目指して、グループで課題と、ビジョン・ゴールを設定し、実践を進め、保護者や地域の方に対してプレゼンテーションを行います。

協働的、体験的な学びの中で、様々な知識や経験を生徒が主体的に獲得し、課題を解決していく力を身に付けさせることを目指しています。

## 3 教育活動を支える体制

主体的・対話的で深い学びのある授業づくりや、基礎的・汎

## 4 おわりに

「体験を通して、常に自分自身を見つめ、これからどうしていくべきか考えられるようになりました」「こんな貴重な体験ができる新吉中学校の生徒であることを、私は誇りに思っています」といった、生徒の意欲的な感想が聞かれました。

今後とも、職員の同僚性を高めながら粘り強く実践を重ねていきたいと思えます。

また授業改革を目指した教科統合型授業の開発や、学級集団の客観的理解のためのハイパーQの活用、生徒と共に深く生き方を考えるためのキャリア教育講演会などを実施しました。

「集団づくり」の2部会を設けて校内研究を行いました。

用的能力の育成に向け、年間26回の職員研修を年間計画に位置づけるとともに、「授業づくり」

(校長 小野 秀明)

## 中学校区学校園が連携した 授業改善の取組

岡山市立吉備中学校区

### 1 はじめに

本学区は岡山市の西部に位置し、田園の広がる穏やかな地域です。

学区内に山陽本線庭瀬駅があり、岡山駅や倉敷駅まで10分程度、自動車での移動も便利のため、近年急速に都市化が進んでいます。

### 2 取組までに

平成23年度から岡山市教育委員会から地域協働学校の指定を受け地域と各学校園が連携し継続した指導が行えるよう、校区の校長会で『仲間と共に今を生きるたくましい人間の育成』・自ら考えやり抜く子・共に支え合う子』という目標に統一し、幼児・児童・生徒を育成しています。



体育会での中学生と幼稚園児との交流

写真にあるように中学校の体育会で幼稚園の年長組と中学校

3年生が一緒にダンスを踊ったり、小学校6年生が中学校の授業を見学したり、部活動体験をしたりすることで学校園間の活発な交流を図っています。教職員も授業研究や生徒指導、

人権についての研修を合同で行い連携を深めています。

### 3 取組について

幼・小・中学校が連携しての授業改善のため、毎年、小・中で交流し授業の検討をしました。昨年度の取組を例に挙げると、「特別支援教育の視点を大切にしたい授業づくり」と「コミュニケーション能力を高める授業づくり」のどちらかを柱にした授業を行うこととして、全教員が授業を公開しました。そのため準備として、小・中学校の教



校区内の小学6年生を対象にした授業見学

員が小グループに分かれて授業デザインを検討しました。異なった校種の先生から助言をいただくことで発想が膨らみ指導案の作成に生かすことができました。その後、校内の研修会でさらに検討を加え、できあがったものを元に公開授業、研究協議を行いました。

### 4 成果

このように、校長のリーダーシップのもと授業改善の取組の柱を決めたことで、校種を越えて授業改善に取り組み機運が醸成され日々の授業づくりに向けて意識も高まりました。そして、子ども同士が学び合う活発な授業ができることで、多くの児童生徒は落ち着いて学習に取り組んでいます。

(岡山市立吉備小学校)

校長 有國 肇

(岡山市立陵南小学校)

校長 大森 雅信

(岡山市立吉備中学校)

校長 吉田 万里子